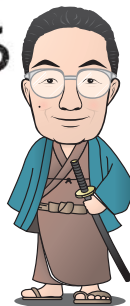


## 縁結び侍の旅コラム

# おもしろき世の 面白き人たち



山口 毅  
コンサルティングファーム社長

## 「今月のひと」 樋口保隆さん

原子力に関わるエンジニアからキャリアアカウンセラーへの転進を図った樋口さんには、高いモチベーションで仕事をする職場環境への熱い思いがありました。

ひぐち・やすたか 中小企業診断士、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）。キャリアアカウンセリングルーム設置やWEBカウンセリング等のユニークな事業を行う株式会社エンプロイサービス代表取締役。

す。ロボットには半導体が使われるので、放射線や高温に耐えられる設計が樋口さんのミッションとなっていました。

### アメリカで接した キャリアアカウンセラーの仕事

世界の原子力技術は、欧米が先行しています。このため樋口さんたちは、トラブル防止策を調査するために海外を回り、その数は38カ国にも上りました。その時、ある仕事について初めて耳にします。

「アメリカに行ったとき、エンジニアからキャリアアカウンセラーについて話を聞く機会がありました。その話によると、資格者はメタル面でのカウンセリングだけではなく、企業破綻やM&Aなどで企業が離合集散した時などに、人材のエンプロイヤー（雇用される能力）を高めて再就職を支援（アウトプリースメント）する相談者としても貢献していました。

資格者のレベルも社会的地位も高く、ほとんどが大学院で心理学を学んだ方が就いていました。当時は「そんな職種もあるのだな」という程度の認識でしたが、この

今年7月に発生した新潟県中越沖地震の影響で、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の火災が発生したニュースを聞いたとき、樋口保隆さんは、かつて起きた二つの原子力施設の事故を思い出していました。一つは平成7年の原発「もんじゅ」における事故と旧動燃によるビデオ改ざん事件。もう一つは日本の原子力産業で初めて死者を出した、平成11年の東海村JCO事件です。

樋口さんはこれらの事故当時、エンジニアとして、原子力プラント向け極限ロボットの設計・開発等に携わっていました。

「安全・安心が最も求められる分野で、いったん信頼性が破壊されると、それを取り戻すことは並大抵のことではありません。事故は、まじめに仕事をしている他の原子力関係の人たちにも、多大な影響をもたらしました」と当時を振り返ります。

### オイルショックから 原子力の世界に目を向ける

樋口さんは、熊本生まれ熊本育ちの「肥後もっこす」。熊本人の一本気な性格は、純真さと一途さを表現した気質ともいえるでしょう。温和な語り口の中に、そんな性格

が読み取れます。

高校、大学と陸上ホッケーに明け暮れた樋口さんが原子力の世界に目を向けたのは、大学在学中のオイルショックがきっかけでした。「将来の日本のエネルギー問題を解決する」と意気込み、専攻を原子力の分野に決め、卒業後は原子力プラントの建設会社に入社しました。プラント設計に7年間従事した後、核燃料の製造会社に転職して、原子炉を検査するロボット

の設計に携わります。原子炉は1年に1回は休止させて内部の検査をしますが、人間ができない部分はロボットが行いま

出会いが、樋口さんの後の人生を変えてことになります。

### 原子力への逆風の中 自らのキャリアを転換

バブルの崩壊を経て、原子力産業も持ち直しの兆しを見せていたころに、前述の事故が相次いで発生しました。樋口さんたちのロボット開発は延期や中止が続き、部下のモチベーションも下がって会社を去る仲間も出始めました。

そのころ、小泉政権が就職難解消の切り札の一つとして「5年で1万人のキャリアアカウンセラーを育てる」との構想をぶち上げており、2000年にはCDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）という資格制度が創設されました。CDAはカウンセリングを通じて雇用のミスマッチ解消やキャリア開発を支援する資格で、アメリカとは少し異なる制度ですが、部下のモチベーション低下に悩んでいた樋口さんは記憶を呼び覚まされ「この制度を社内に取り組んでみよう」と決意しました。

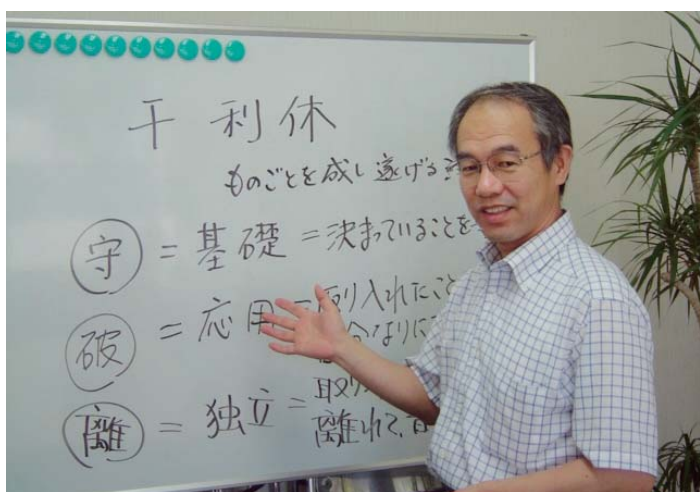
エンジニアのキャリアを捨て、キャリアアカウンセラーとして働く大転換を決断した樋口さんは「部

下や同僚が生き生きと仕事ができる。仕事と生活のバランスを取りながら良い仕事をするための環境づくりができる。組織への貢献の形を変えただけ」と捉え、自分にとっても会社にとっても一つのチャンスであると考えたのです。

### キャリアアカウンセリング ビジネスを立ち上げる

社員のモチベーションを高めようと始めた制度でしたが、1年ほど経つと「キャリアアカウンセリン

千利休の「守破離」を使って  
キャリア形成を説明する樋口さん



グビジネスで起業してみたい」と意識するようになります。そして、中小企業診断士の勉強を通して経営を体系的に勉強し、起業に向けた準備を進めました。あわせてCDAの資格取得を通して、カウンセリングに関する体系的な知識やスキルを身に付けていきます。

CDAを取得したころから「樋口さんに話を聞いてもらって元気が出た」という反応が見え始めました。これに自信を深めた樋口さんは、2005年4月にコンサルティングオフィスを設立、翌年1月には株式会社エンプロイサービスを設立して、本格的な事業化に踏み切りました。2006年には「企業へのキャリアアカウンセリング事業」が、平成18年度のステップアップ助成金（日清食品、大阪府）の優秀賞を受賞しています。「社会が大きく変化する中では、どんな人でも少なからず仕事や家庭に悩みを持っています。それでも、10年後、20年後のキャリアデザインができていれば、多少の困難は乗り越えられるのです」。そう語る樋口さんの仕事の一つは、ビジネスパーソンのキャリアデザインを描くお手伝いです。

経営者からの相談には二つのタイプがあるそうです。一つは「利益が上がっているうちに従業員のモチベーションを上げ、優秀な人材の採用と定着を図りたい」という相談。もう一つは「M&A等の過程で、コミュニケーションが取れずに下がってしまった社員のモチベーションを回復したい」という相談です。

社員のモチベーション向上は、企業統治のために重要な要素です。「CS (Customer Satisfaction、顧客満足) の基本はES (Employee Satisfaction、従業員満足)」という経営理念の下、社員のモチベーション向上を通して社会に貢献する樋口さんの活躍を期待します。

《関連URL》  
株式会社エンプロイサービズ  
<http://employees.co.jp/>

やまぐち・たけし ● コンサルティング  
ファーム代表取締役。国家資格者を中心とした「メンターネットワーク」(会員300人)を主催して企業向けサービスを提供するとともに、会員の経営支援も行う。  
<http://www.cyber-mentor.org/>